

・物語学＝モノ＋カタリの学

モノ＝異界（カミ）と現世（ヒト）とが交流する境界領域の存在・現象  
 変化のもの（ひと）としての物語主人公たち  
 カタリ＝形取り（象）・ナラトロジー・騙り

・物語学をめぐる内外の交流

物語研究会（1970～）・古代文学研究会・日本文学協会・中古文学会  
 名古屋大学（1975～）教養部・人間情報学研究科・文学部・文学研究科  
 名古屋大学「テキスト科学」COE・「テキスト布置」グローバルCOE  
 GENJI会議（1982インディアナ大学）「夕顔の巻の表現—テキスト・語り・構造」  
 かざり研究会＝美術史・芸能史・人類学・歴史学  
 国文学研究資料館・国際日本文化研究センター・比較文学会など国際学会  
 韓国・中国・米国など留学生たちとその出身大学  
 「心的遠近法」〈psycho-perspective〉絵と物語の文法  
 カレル大学（2005）チェコ国立美術館東洋部門「源氏物語絵屏風」→「狭衣物語絵屏風」  
 フランクフルト実用工芸博物館「物語百番歌合絵巻」→「源氏狭衣歌合絵巻」  
 チェスタービーティ図書館（ダブリン）、パリ国立図書館・ギメ美術館、MAK（ウィーン）  
 ニューヨーク公立図書館スペンサーコレクション・メトロポリタン美術館  
 名古屋市博物館「伊勢物語手鑑」「源氏物語画帖」  
 岩瀬文庫・徳川美術館・蓬左文庫…

・研究書（単著）

- |    |  |            |       |
|----|--|------------|-------|
| 1  | 源氏物語の対位法   | 東京大学出版会    | 1982年 |
| 2  | 物語文芸の表現史   | 名古屋大学出版会   | 1987年 |
| 3  | 色ごのみの文学と王権—源氏物語の世界へ—                                       | 新典社        | 1990年 |
| 4  | 物語と絵の遠近法   | ぺりかん社      | 1991年 |
| 5  | 源氏物語の詩学—かな物語の生成と心的遠近法』<br>（編著・共著）                          | 名古屋大学出版会   | 2007年 |
| 1  | 日本文学研究資料叢書『源氏物語』IV   | 有精堂        | 1982年 |
| 2  | 竹取物語 大和物語  | ほるぷ出版      | 1986年 |
| 3  | 源氏物語 帯木  | 桜楓社        | 1987年 |
| 4  | 物語の方法—語りの意味論   | 世界思想社      | 1992年 |
| 5  | 新講 源氏物語を学ぶ人のために』   | 世界思想社      | 1995年 |
| 6  | 物語の千年—『源氏物語』と日本文化  | 森話社        | 1999年 |
| 7  | 新編竹取物語   | おうふう       | 2003年 |
| 8  | 源氏物語と帝   | 森話社        | 2004年 |
| 9  | 日本語テキストの歴史的軌跡（「テキスト布置解釈学的研究と教育」<br>第8回国際研究集会報告書）           | 名古屋大学文学研究科 | 2010年 |
| 10 | 王朝文学と物語絵（平安文学と隣接諸学10）                                      | 竹林舎        | 2010年 |
| 11 | 〈紫式部〉と王朝文芸の表現史   | 森話社        | 2012年 |
| 12 | 武家の文物と源氏物語絵—尾張徳川家所蔵品を起点として—<br>（愛知県立大学科学研究費補助金基盤研究（S）成果報告） | 翰林書房       | 2012年 |

・時空を超えた人々そして文芸との出会いと記憶の蓄積

これまでの感謝とともに、今後の可能性への再出発  
 Gen（玄・元・源・原・絃・弦・現・幻…）庵  
 友だちの友だちによる因果交流電灯（伝統）の形成を楽しみに！



# 〈紫式部〉と王朝文芸の表現史

高橋 亨 [編]

## 〈紫式部〉のことばと思想

物語史・和歌史・漢詩文や仏典、歴史や文化史、またそれに関わる他の作家など、〈紫式部〉の作品テキストに関わる成立と享受の表現史を総括し、『源氏物語』をはじめ『紫式部日記』『紫式部集』を含めたテキスト引用関連を中心に〈紫式部〉の文芸を再検討する。

森話社



# 月刊名大文学部

第27号

発行：名古屋大学文学部  
広報体制委員会  
koho@lit.nagoya-u.ac.jp

教員コラム No.26

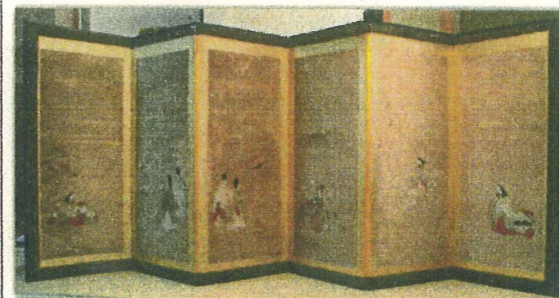
## 清原雪信と清少納言

高橋 亨 (日本文学講座)

江戸時代のはじめ、17世紀中頃に、清原雪信という女性画家がいました。趣味で絵を描く女性は当時もいましたが、雪信は珍しいプロの女絵師です。井原西鶴『好色一代男』や与謝蕪村の俳句にも、その名が登場するほどに有名でした。尾張徳川家には雪信の絵に貴族たちによる詞書を組み合わせた『源氏物語画帖』があります。

雪信の父は久隅守景という国宝「納涼図」の画家で、母は狩野探幽の姪です。十七・八歳ごろは熱心に探幽から絵を学び、探幽の弟子だった男と駆け落ちして京都で活躍したようですが、詳しい伝記は不明です。この雪信が「清原」姓を名乗ったのは、夫の「平野」姓が「清原」氏に通じるからだと言われていると推定されてきました。それにせよ、もっと積極的な理由があり、雪信は自分を清少納言に見立てていたというのが、私の考えです。

雪信は楊貴妃や仙人など中国風の絵や仏画も得意でしたが、小野小町や紫式部など王朝の歌や物語にまつわる、やまと絵人物を多く描いています。絹の布に描いた掛け軸が多く、女性像が得意でした。そのひとつに、『枕草子』で有名な香鑪峰の雪をめぐる清少納言が簾を上げた図もロスアンゼルスにあることが、最近になって判明しました。



そして何よりも、私が所蔵する屏風の両端に、本を置いた机に座る紫式部と対で、立ち姿で描かれているのが清少納言だと推定できるからです。その絵の右下に「清原氏女雪信筆」という書名と印があるのです。江戸の天才女性画家が、平安朝の女性作家と自分を重ね合わせています。江戸前期の武家文化は、平安朝貴族社会の文化や文学が再生した時代としても注目されるのです。



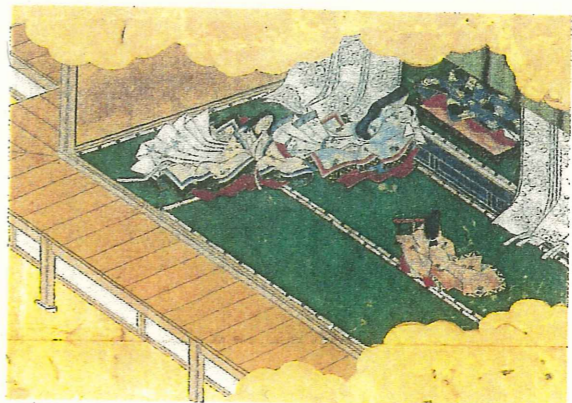
# 物語序の課題

高橋亨

名古屋大学最終講義

1 桐壺 (源氏 誕生十二歳)

桐壺帝と桐壺更衣の間に、光源氏が誕生。更衣は帝の愛を独占したために他の女御や更衣たちの憎悪の的となり、病に倒れ、ついに不帰の人となる。成長するにつれ、優れた容姿、資質が際だつ皇子(源氏)を、来日した高麗の相人(人相見)は、帝王たるべき相ではあるが、帝位につけば国が乱れると判

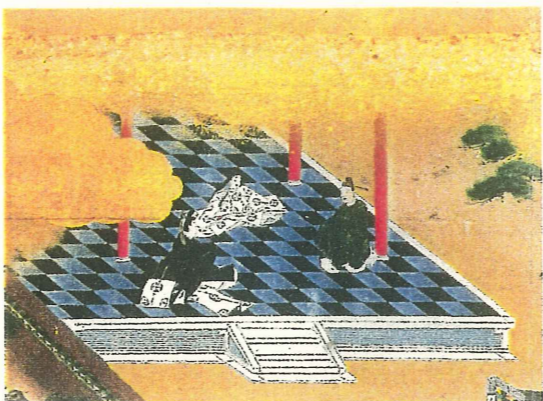


1-① (17氏信)

じる。帝は思案の末、皇子を臣籍に降し、源氏の姓を賜る。源氏は十二歳で元服し、左大臣の娘、葵の上と結婚するが、心中には、父である帝の寵愛を受ける藤壺への憧れを秘めていた。

### 源氏繪場面解説

- 1 ① 光源氏誕生。桐壺更衣、源氏を抱いて帝の前に進む。
- 1 ② 桐壺更衣の死後、帝の命により鞍負の命婦、更衣の里邸にその母を見舞う。
- 1 ③ 鴻臚館にて高麗の相人、源氏を見る。(P28-19 P33-24)
- 1 ④ 清涼殿東廂にて源氏元服の儀式。左大臣加冠の役を務める。(P30-21)
- 1 ⑤ 源氏の加冠の縁として帝より左大臣に物を下賜。



1-③ (16探幽)

2012.3.16

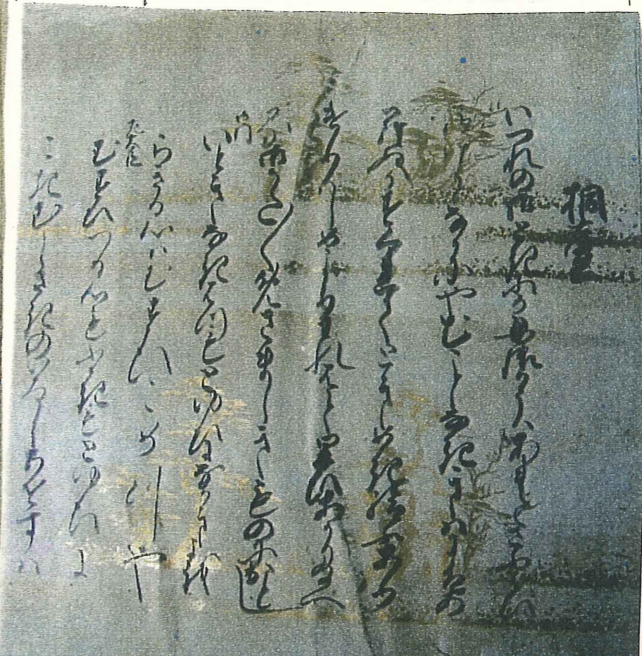


1-④ (28浄土寺)



スレンドラ...の70巻...の巻

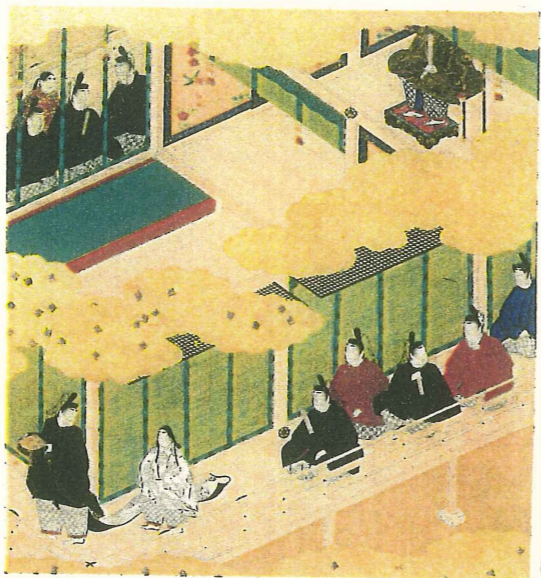
④ ウーン MAK 手画帖



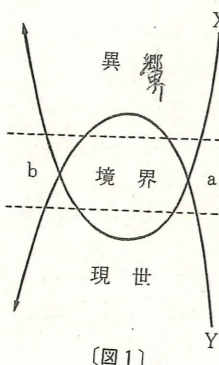
桐壺



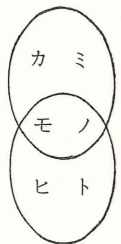
桐壺  
①01桐壺  
②5  
③D  
清涼殿東廂にて源氏元服の儀式。  
左大臣加冠の役を務める



4 桐壺 (実寸)  
Kiritsubo (Actual size)



(図1)



(図2)

変化のもの

桐壺の物語は、光源氏の誕生から始まり、彼の成長と政治的駆け引きを描く。この物語は、権力と愛の衝突をテーマとしており、源氏の運命が国家の未来にどう影響するかを問うている。

図33の1 具慶本「桐壺」 鑑元天皇

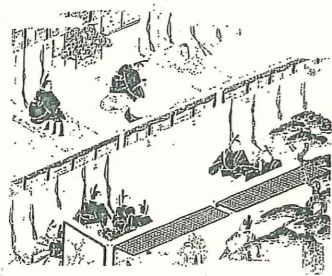
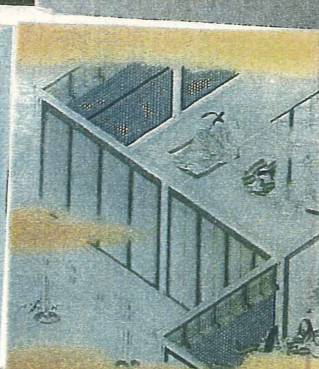
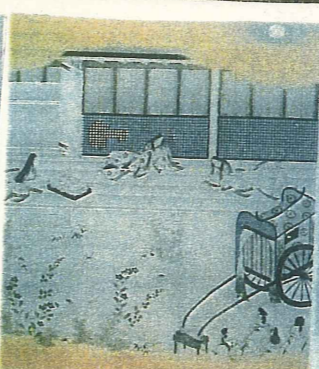
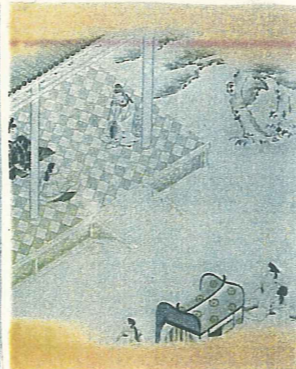
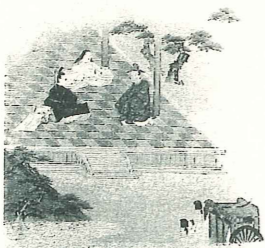


図4の7 サントリー本「桐壺」



桐壺の物語は、光源氏の誕生から始まり、彼の成長と政治的駆け引きを描く。この物語は、権力と愛の衝突をテーマとしており、源氏の運命が国家の未来にどう影響するかを問うている。

図13の1 大英本「桐壺」 鹿司房輔



図版8 桐壺

桐壺の物語は、光源氏の誕生から始まり、彼の成長と政治的駆け引きを描く。この物語は、権力と愛の衝突をテーマとしており、源氏の運命が国家の未来にどう影響するかを問うている。

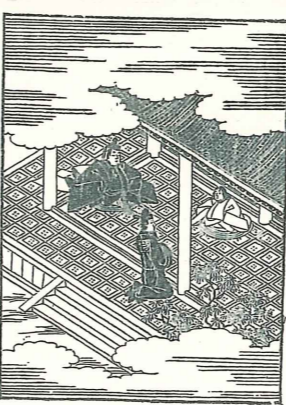
図版7 桐壺



258 桐壺 Kiritsubo 大英図 如座



桐壺5



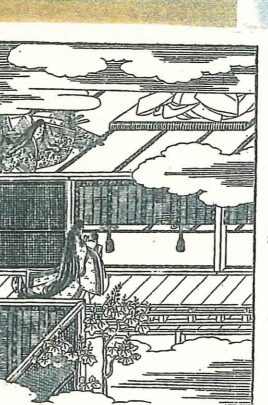
桐壺4



桐壺3



桐壺2



桐壺1